

産総研はPFAS課題に対応するための新たなプラットフォーム

PFAS Total Solutions を立ち上げます

※2026年春予定



PFAS Total (総PFAS) 評価のための装置群

最先端のPFAS計測装置

様々なPFAS関連分析・評価が可能

- LC-MS/MS：ターゲット分析
- LC-TOF-HRMS、GC-Orbitrap-HRMS：ノンターゲット分析・ターゲット分析
- CIC：EOF分析・AOF分析



技術コンサルティング・ 技術指導・共同研究

指導・分析・評価

製品・排水・環境水・土壌・大気

- ISO 21675に代表されるPFAS多成分分析
(イオン性・中性PFASを含め105種類)
- ノンターゲット分析
(数万種類)
- PFAS Total分析
(TOP-Assay、EOF分析、AOF分析)



研究者によるサポート

産総研および国内外の連携専門家

- PFAS分解・処理技術評価
(多成分分析によるPFAS二次生成量評価)
- 製品中PFAS Total測定
(ECHA2023規制案への対応など)
- 各種分析技術を組合せ、残留しやすい/分解しやすい/処理が困難なPFASのカテゴライズ等により、適切な自主管理知見を拡充

分析技術の習得、分解技術、代替材料・吸着材製品開発など、様々なフェーズを支援

連携分野例

- ◆ 製品中のPFAS含有評価
- ◆ 排水処理技術の性能検証
- ◆ 分解生成物の網羅的モニタリング
- ◆ 吸着材・膜材の劣化評価・寿命予測
- ◆ バイオアッセイや有害性評価との連携
- ◆ 新規PFAS分析・評価技術の開発
- ◆ 事業者等への分析技術指導

想定される成果

- ◆ 規制適合可能な製品開発の加速
- ◆ 国際市場での信頼性の確保・輸出対応力の向上
- ◆ 事業者・検査機関における分析能力の底上げ、国内分析基盤の拡充
- ◆ 客観的評価基盤の提供によるPFAS対策の実装促進
- ◆ 国際標準提案への展開

分析機器メーカーとの協力

- ◆ 最新鋭の分析装置（デモ機）を用いて多様なアプリケーション評価が可能
- ◆ 現場での課題解決を通じて、装置の改良点や新機能の開発ニーズをフィードバック
- ◆ 実装データを通じ、機器メーカーにとって価値あるノウハウの蓄積
- ◆ 多様な評価事例が標準化や国内外の対策に寄与



- ✓ PFAS Total Solutions は、技術と知見を集約し、企業の実装・社会への展開を加速する新たなプラットフォームです。
- ✓ 国際規制の動向をにらみつつ、科学的根拠に基づく評価・助言を提供し、環境と産業の両立を支援します。
- ✓ 産総研内外の研究者・企業との連携をさらに広げ、実効的なPFAS対策を実現していきます。